

校長通信

第6号 2019. 8. 23

SDGs ってどんなことをすればいいの？その2

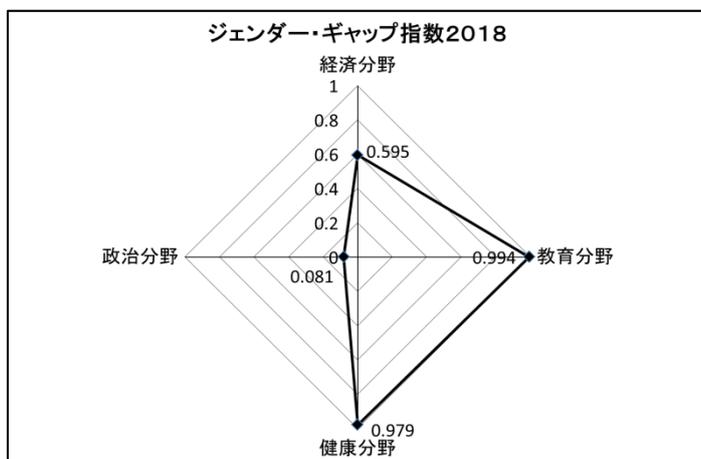
【1】はじめに

前回に引き続き、SDGs の取組について紹介します。疲れたときに、休憩しながら読んでくれたらと思っています。

【2】ジェンダー平等を実現しよう



今回紹介する目標の最初は、ジェンダーの平等を実現しようという話です。私もこの項目を調べていて初めて知ったのですが、毎年 The Global Gender Gap Report が世界経済フォーラムで報告されているのですね。そこで、最新の 2018 年 12 月に発表されたデータを見てみました。数値は、「1」に近いほど、ジェンダーの差は無いと判定されます。日本の結果は、
経済分野 : 0.595 (117 位)、教育分野 : 0.994 (65 位)
健康分野 : 0.979 (41 位)、政治分野 : 0.081 (125 位)



総合で 0.662 (110 位) です。カッコ内の順位は、149 か国の中で順位を示しています。下位も下位、相当な下位ですね。これをグラフで表すと次のようなグラフになります。因みに、2017 では、144 か国中 114 位。少しだけ改善したといえますが、果たしてそう言ってもいいかどうか・・・という状況です。

また、教育と健康分野では、「1」にかなり近い値ですが、経済で 0.595、政治に至っては、0.081 です。という事は、学校でのジェンダーについての感覚で社会に出ると、ジェンダーの壁にぶち当たるというのが、この数値を見てもわかります。

このジェンダーの問題を考えるときに思い出すのが、前のアメリカ大統領選挙で、トランプ候補と争

ったヒラリー・クリントン候補の言葉です。彼女はアメリカ憲政史上初めての女性大統領に挑戦したのですが、結果は敗北。その敗北宣言の中で、次のように語っています。有名な「ガラスの天井」のスピーチです。

私たちに、みなさんにこの戦いを、今もこれからも、一生続けていただく必要があります。そして女性のみなさん。とくにこの選挙活動と私に対して、信頼を寄せてくださった、若い女性のみなさんにお伝えしたいのですが、みなさんの指名を受けたことを、たいへん名誉に思っています。

私たちはいまだに、もっとも高くて固いガラスの天井を打ち破ることができてはいませんが、いつかきっと、誰かが実現してくれることでしょう。その時期が、私たちが考えるよりも早く訪れてくれることを願います。

また、私たちを見てくれている、幼い少女のみなさん。みなさん全員に価値と力があること、そしてこの世界で自分の夢を追い求めかなえる、チャンスと機会を得る権利があることを、けっして疑わないでください。

あのヒラリーでさえ、感じたジェンダーの壁。社会や政治の世界では、まだまだジェンダーギャップが存在するのですね。

さて、SDGs で紹介する最初の取組は、インドのシャクティ舞踏団の紹介です。ご存じのようにインドは宗教的

理由からカースト制度というものが存在します。綺麗な民族衣装をきて踊る彼女たちですが、カースト制度の中



では、最下層のダリットに位置付けられる女性たちです。私もカースト制度については、名前は知っていても詳しくないので、少し調べてみました。

ダリットとは、「壊されし人びと」の意味で、インドでは今も、農村のダリット世帯の30%以上が貧困線以下の生活にあり、栄養不良、住宅、衛生設備の欠如、生業につくことの困難など、さまざまな問題に直面しているという事です。特に少女に対しては、身分による差別と性による差別の複合的な差別があり、暴力やレイプが横行したと国際人権 NGO である反差別国際運動はレ

ポートしています。そんな彼女たちに、人間としての誇りを取り戻そうと活動を始めたのが、修道女のシスターチャンドラさんです。

彼女は、ダリットの少女を受け入れるセンター、シャクティ・フォーク・カルチャー・センターをつくり、将来自立して生活できる技術や知識とともに民族舞踏を教え、舞踏団を組織したのです。彼女たちが持っている太古は、パレイと言って、抑圧を象徴する太鼓です。それを打ち鳴らしながら、差別反対のアピールを行っています。

今宮高校のダンス部は、世界レベルで有名ですよ。いつかは、シャクティ舞踏団とコラボレーションできたらいいですよ。



もうひとつ、ジェンダーについて取り組みを紹介しましょう。それは、おもちゃです。写真を見るとどう見ても女の子用の「ドールハウス」に見えますよね。ところが、このおもちゃ、「Roominate village」と言って、かなりの優れものなのです。どれだけ、優れものかという、家を組み立てるだけではなく、モーターを使ってファンを回したり、ケーブルで回線をつないで電気をつけたりすることができるのです。

女の子は、小さいころから「お人形」を与えられて、「おんなのこ」に育つように育てられてしまいます。そして、結果として、

女の子は、「理科系が苦手」になってしまうことが多いのですが、「本当にそれでいいのだろうか？」と疑問を持ったのが、マサチューセッツ工科大学で機械工学を学んだアリス・ブルックスさんです。「女の子だってなんだってできる！」と考えて考案したのが、このドールハウスなのですね。

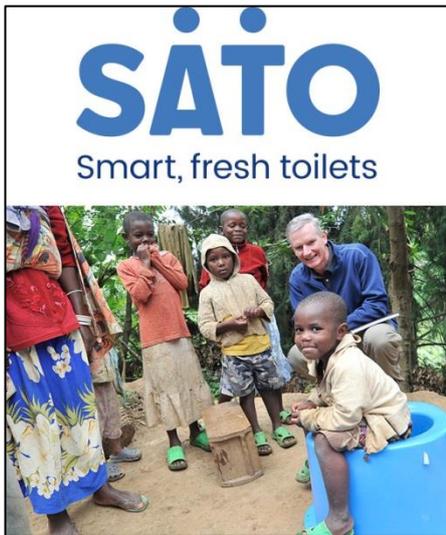
早速アマゾンで調べてみたら、なんと在庫切れ！再入荷の目途無し！残念です！

【3】安全な水とトイレを世界中に



ここまでのSDGsの取組は、前の号で紹介した「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」から引用したものがほとんどでしたが、今から紹介するのは、外務省のwebpageで紹介されているものです。それは、LIXILの「安全なトイレを世界中に」という取り組みです。以下、LIXILのwebpage

(<https://www.lixil.com/jp/sustainability/activities/sanitation.html>)



からの引用です。

世界では現在でも約 3 人に 1 人、約 23 億人の人びとが安全で衛生的なトイレのない生活を送り、そのうち約 9 億人が日常的に屋外で排泄を行っています。また、不衛生な水や環境に起因する下痢性疾患で、毎日約 800 人ももの 5 歳未満の子どもたちが命を落としています。

特に女性にとって、安全で衛生的なトイレがないことは様々な深刻な問題につながっています。屋外での排泄は人間としての尊厳にかかわる問題だけではなく、自宅や学校から離れた人目につかぬ場所まで用を足しに行く途中でいやがらせや暴行を受ける危険をもはらんでいるのです。学校に清潔なトイレがないことは、思春期を迎えた女子児童たちが通学をあきらめざるを得ない大きな要因となっています。

(略)

世界の衛生問題は極めて多岐にわたり、かつ複雑です。こうした状況に対処するため、LIXIL では各市場のインフラ、所得水準、環境的制約などの特性やニーズに合わせた複数のソリューションを提供しています。その主要な解決策が、すでに事業化している「SATO」ブランドの製品、そして現在実証試験中の「マイクロラッシュトイレシステム」、「グリーントイレシステム」、「ポータブルトイレシステム」です。



みなさん、知っていましたか？LIXIL がこんな取り組みをしているのを！私も SDGs のことを調べて、初めてこの取り組みを知りました。これ以外にも、日本の企業が、率先して SDGs に取り組んでいる例がたくさんあります。

大阪のよしもとも積極的に取り組んでいることを知っていますか？いろいろ勉強して、世の中の動きをもっと知る必要がありますよね。

【4】エネルギーをみんなに、そしてクリーンに



今回の通信の最後に紹介するのが、エネルギー問題です。これは、日本もかなり深刻な問題で、政治問題化しています。

そこで、6月にニュースになった話題を紹介しましょう。それは関西電力の株主総会の話です。今年、G20 が開催されたために、毎年開催される株主総会が前倒しで実施され、6月21日に関西電力も株主総会が開催されました。そこで、関西電力の株主である大阪市が、関西電力の経営方針について株主提案を行いました。否決されたというニュースです。

大阪市は、どんな株式提案を行ったのでしょうか？内容を詳しく紹介する紙面が無いので、大阪市が他の株主さんに、大阪市の提案に賛同するように呼びかけた手紙を紹介します。

令和元年6月7日

関西電力株式会社の株主の皆様

大阪市長 松井 一郎

関西電力株式会社第95回定時株主総会における大阪市提案への御賛同のお願い

拝啓 立夏の候、益々御清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は大阪市政に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故からはや8年が経過しておりますが、依然として被災地では懸命な復旧・復興に取り組まれている状況にあります。原子力発電所においてひとたび重大事故が発生した場合、その被害が回復不可能なほど甚大なものになることが明らかとなっただけではなく、使用済み核燃料の処理体制が未だ確立していないことも考え合わせますと、我が国のエネルギー需給のあり方を根本的に見直し、原子力発電への依存から脱却する必要があると考えております。

また、多様なエネルギー源の導入を促進し、供給力の向上と電気料金の安定化を図る必要があることから、国では広域的運営推進機関を設立し、電力小売を全面自由化するとともに、最終段階である送配電部門の分離に向けた法制度や公平・公正な競争環境の整備が進められているところです。

こうした状況を踏まえ、本市は関西電力株式会社に対して、原子力発電から多様なエネルギー源への転換をはじめ、発送電分離に向けた事業形態の革新、さらには徹底したコスト削減や経営の透明性確保、脱原発と安全性の確保などを求めて、来る令和元年6月21日に開催されます同社の第95回定時株主総会におきまして、別紙の内容を議題とするよう8項目の株主提案を行いました。

これらの提案が実現することは、同社にとっても中長期的な観点からの経営体質の強化・安定化につながるものであり、株主価値の維持・拡大にも資するものと考えております。

以上の趣旨に御理解をいただきますとともに、本市提案に御賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

内容は、よくわかりますよね。大阪市は、関西電力に対して「脱原発・多様なエネルギー源」に経営を転換することを提案したのです。そのために、経営を透明化し、コスト削減を徹底することを提案しました。これに対して、関西電力の社長は「環境や経済性の観点から最適なエネルギーミックスが必要」と原発の必要性を強調したとニュースでは伝えています。

さて、みなさん、ここで一度考えてみましょう。

あなたは、この大阪市の株主提案に賛成ですか？反対ですか？確かNHKのニュースだと思うのですが、株主提案に賛成の株主さんは、「せっかく大阪市が良い提案しているのに・・・」と不満を言っていましたし、反対の株主さんは「そんなこと言っても、原発なかったら電気代が高くつくやないですか」と言っていました。

一度、賛成・反対の立場に分かれてディベートをしても面白いかもしれないですね。これから君たちが歩いていく人生の中でエネルギー問題は、絶対と言っていいほど避けては通れない問題だと思います。真剣に議論をする必要があります。